

生物多様性地域戦略とは・・・？

地域を支える土台である、生物多様性・自然資本を保全・管理するための、全ての土台となる計画です！

魅力ある持続可能な地域

他地域

価値

生物多様性・自然資本から得られる便益・効果



生物多様性地域戦略

(生物多様性・自然資本に直接的に関係する事項に限らず、管理・活用、関係する社会経済的行為、これらを支えるための資源動員まで含む)

自然の直接的
管理

自然の恵み
の活用

自然関連の
生業の継続

行動変容と
市民参加

データ蓄積
と根拠ある
施策

1. 地域戦略を策定するメリット

その1

様々な社会課題の解決や地域活性化につなげることが可能です

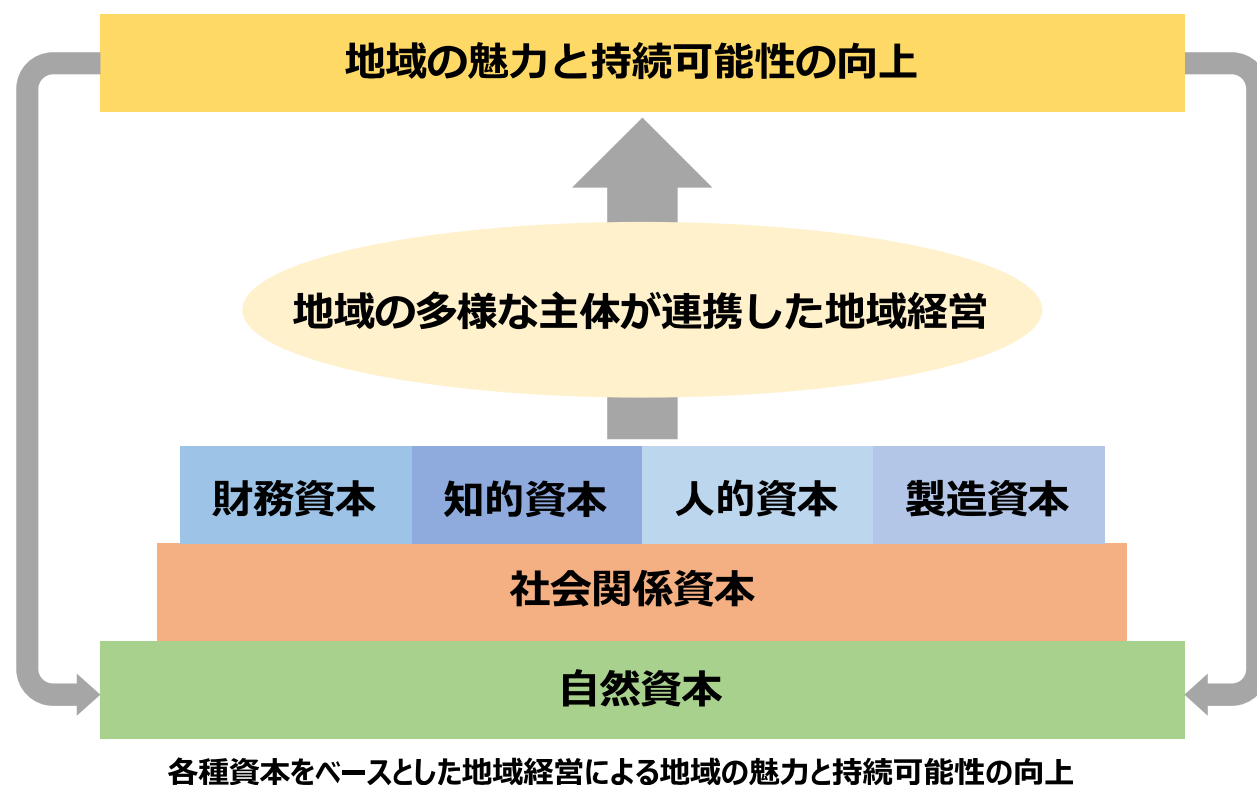
- 地域の社会経済活動の基盤となる生物多様性・自然資本が無ければ、地域は成り立ちません。
- 地域戦略は生物多様性・生態系サービスを守り、持続可能な形で上手に活かしていく計画です。



1. 地域戦略を策定するメリット

地域戦略策定がこんな思いに答えられるかもしれません。

- 地域の自然を守りたい
- 地域への投資を促したい
- とにかく地域を元気にしたい



- 生物多様性・自然資本は、**地域を支える**ものなんだね。
- **土台がしっかり**したら、元気にみんな活躍できるよ！！



1. 地域戦略を策定するメリット

その2

企業からの投資の誘引にも活用可能です

- 人口減少などによって地域活力が少しずつ低下してきている地域もある中、地域が持続的な取組を進めるためには民間企業や外部の力も不可欠です。
- 一方で、企業もネイチャーポジティブ領域における事業機会を積極的に探索しています。企業は価値創造の器であり、共に価値を創造できるパートナーを常に見つけています。
- このため、生物多様性、自然資本を社会関係資本と併せて地域経営を行う明確な意思を持つ地域は、企業のコラボレーション相手として非常に魅力的です。
- 同じ投資額でより多くの価値創造、社会的使命を果たすことができる地域は、企業価値を高める場になります。地域戦略は、地域と企業をマッチングさせるための道具として活用できます。



企業から見た地域の意思と地域選択

統合策定とは？メリットは？



- ・ 生物多様性基本法において、生物多様性地域戦略（以下、地域戦略）は単独で策定しなければならないとはされていません。既に環境基本計画や緑の基本計画と統合的に策定された例があり、その他にも様々なパターンでの策定方法が考えられます。
- ・ 本資料では、代表的な6パターンをご紹介します。
- ・ 参考までに、本資料で示す6パターン以外にも、SDGs未来都市計画や世界農業遺産維持保全計画、さらにはラムサール条約登録湿地保全活用計画と連動性を持たせるなど、地域特性に応じた独自性あふれる策定パターンが考えられます。

地域戦略は単独で策定しなくてもいい！

統合策定の メリット

- ・ 上位計画と統合的に策定することで、移住促進などまちづくりとも紐づけられる
- ・ 同時に施策を考えるので、農林水産や防災など、他の分野との整合性がとりやすい
- ・ 施策の点検評価のための目標・指標が統合され、進捗管理がシンプルになるとともに、管理等にかかるコスト(予算・人員)が削減できる

1. 環境基本計画との統合策定
2. 緑の基本計画との統合策定
3. 地方版総合戦略との統合策定
4. 地球温暖化対策実行計画区域施策編との統合策定
5. 地域気候変動適応計画との統合策定
6. すでに統合策定されている計画への追加

本資料で
紹介する策定
パターン

【章立て型】と【散りばめ型】、あなたはどちらをとりますか？

【章立て型】

一部の章・項を地域戦略とする方法

- 比較的都市域の割合が大きい自治体
- 比較的人口が多い自治体
- 担当部局の所掌範囲が明確な自治体

第1章	〇〇
第2章	〇〇
第3章	生物多様性地域戦略
第4章	〇〇
第5章	〇〇
第6章	〇〇



【散りばめ型】

計画の全体に生物多様性や自然資本に関する事項をちりばめ、その計画全体を地域戦略とする方法

第1章	〇〇 
第2章	〇〇 
第3章	〇〇 
第4章	〇〇 
第5章	〇〇 
第6章	〇〇 

* 緑部分が生物多様性関連事項を指す

- 最初に、「これは地域戦略を兼ねるものである」と宣言
- 別途行動計画や生物多様性に関する事項だけ抜き出した要約版としてまとめる等の工夫でより分かりやすくなります

- 自然あふれる地域で、自然があることが地域のアイデンティティの基盤となっているような場合
- 環境部門だけでなく、企画財政や農林部門等が生物多様性を所掌する場合
- 策定着手から策定・公表まで時間的猶予のある場合（2年程度）

- 自治体の特徴、規模によって、**生物多様性・自然資本の持つ意味合い**は異なります。
- 脱炭素や資源循環などと併せて、持続可能な地域を目指すうえで、生物多様性・自然資本を「**横串テーマ**」として**位置付ける重要性が低い場合**には、**担当部局ごとに分担してスピード感をもって計画化し、施策や行動に移す**方が重要と考えられます。

- 例えば、**総合計画のほとんどの章に生物多様性や自然に関する文言が入っている**のであれば、**生物多様性・自然資本が無くては成り立たない地域**であると言えます。
- 「生物多様性」というテーマで施策間に**横串を刺す**、あるいは施策の**横断的基盤として機能**させることが可能となりますが、複数部門にまたがった調整が必要なため、一定の時間と労力が必要となります。
- このとき、**他部門との協力体制**が最初からとれている自治体にとっては大きなアドバンテージになります。